

「助け合いや思いやりはどこかでつながっていくような気がします」と話す
馬島さん
＝長崎市市内（山下哲嗣撮影）



ぬくもり届けたい

手編みマフラー 200本障害者らへ

マフラーで人のぬくもりを届けたい。長崎市愛宕2丁目の会社員、馬島好美さん(64)は、ボランティアで手編みのマフラーを東日本大震災の被災地などに贈ってきた。24日には新たに計200本を、県手をつなぐ育成会(甲田裕会長)と県社会福祉協議会(出口啓二郎会長)を通じ、県内の障害者や高齢者にプレゼントする。

馬島さんは2009

年、交通事故に遭い、親指、鎖骨、腰、左足を骨折。リハビリのつもりで、中学のころ趣味だったレース編みに挑戦した。11年3月、東日本大震災が発生。「何か自分にできることはないだろうか」。そう考えた馬島さんは会社勤めの傍ら、マフラーを編み始め、同年10月、被災地の宮城県気仙沼市に100本を送った。「マフラーの暖かさを通して人のぬくもりが伝

馬島さん 1年かけ製作、あす寄贈

わるとうれしい」。そんな思いでその後も編み続け、お世話になった病院や会社の組合などへのプレゼントも含め、これまで寄贈したのは計600本。

新たな200本は、約1年をかけて白と赤、白とグレーなど2色の毛糸を使い、1本ごとに「元気であすごし下さい」と記したカードも添えた。

馬島さんは「受け取る人の笑顔を想像しながら作るのは楽しい。私がかがしたときも多くの人に助けられた。助け合いや思いやりは、どこかでつながっていくような気がします」と話している。

(山田葵)